



水素燃料バス出発

地域、環境に優しい交通手段に

BRTで週3回実証運転

JR九州（福岡市）は28日、日田彦山線に導入したバス高速輸送システム（BRT）で、水素を使う燃料電池バスの実証運転を始めた。「二酸化炭素（CO₂）を出さないエネルギーの可能性を探る目的で、トヨタ自動車などの商用車連合や福岡県と連携して取り組む。大分県は「県産」の水素をBRTに供給する方向で調整している。

日田彦山線

実証は添田（福岡県添田町）日田間を週3回往復し、2025年春まで続ける。燃料電池バスは定員14人で、水素を約10分間でフル充填し、380キロを走行できる。

午前9時40分に添田駅を出た第1便は、約1時間半後に日田駅に到着。乗客6人が降りた。添田町落合の無職角崎敏光さん（65）は「空調の音しか聞こえず静かだった。普段の電動バスより乗り心地もいい」と気に入った様子。

大分合同新聞
2023年
11月29日(水)
朝刊 20面

排出削減の有効性などを確認する。バスが燃料を供給する水素ステーションは、発着地の添田駅から約40キロ離れた福岡県宮若市にあり、時間や労力といった課題も検証する。

JR九州企画課の西羅悠平副課長（40）は「地域住民だけでなく、環境にも優しい交通手段として実用化できれば」と語った。

実証に大分県は直接関わっていないものの、BRTに県で生産した水素を供給する方向で検討している。

×
モ

日田彦山線は2017年7月の福岡・大分豪雨で被災し、添田・夜明（日田市）間の29.2キロが不通となった。今年8月、一般道と線路跡の専用道計約40キロを専用バスが運行する方式で復旧した。



JR日田駅に到着した水素燃料電池バス（28日、日田市）



燃料電池車 燃料の水素を酸素と反応させ、発生した電気でモーターを動かして走る。既に市販もされている。実証で使うバスは、トヨタ自動車の燃料電池車「ミライ」の技術に応用した。

交通機関も脱炭素化の対策が求められる。県新産業振興室は「水素のニーズが高まった時に安定して供給できるような体制を整えたい」と話している。

（清松俊朗）

〔問①〕 水素を使う燃料電池車の利点は？

〔問②〕 九重町で大手ゼネコンが水素製造に活用している自然エネルギーは？

〔問③〕 地球環境にやさしい生活のため、こういったことを改良すべきか、考えよう